稲　穂

豊崎小学校　校長室通信
令和5年11月30日
第8号　文責　久保　亨

教育は遺伝に勝てるか？

今年度は、無事にバザーも開催され、まさに実りの秋となった11月でした。保護者の皆様には、2か月前からの準備や打合せに始まり、前日の会場設営、当日の調理や販売、そして後片付けまで、大変お世話になりました。児童も保護者も、そして地域の方も、みんなが笑顔になれる素敵な時間となりました。本当にありがとうございました。バザーに対する保護者の皆様の献身的な活動の様子と笑顔が、子どもたちの心に刻まれたことと思います。

今回の表題は、慶応義塾大学名誉教授　安藤　寿康　氏の著書の題名です。現在、豊崎小は読書週間の真っ最中です。子どもたちに読書を勧めている立場上、私も読書をしないわけにはいきません。しかも、この題名です。教育に関わるものとして、読まないわけにはいきません。（作戦でしょうか…。）ということで、読んでみました。

さて、勝負の結果は…？残念ながら、教育の負けです…。結局、「生まれが9割」は否定できないのだそうです。しかし、安藤教授は、「悲観することはない」と言います。例えば、学力の場合、環境の影響が30％くらいあるのだそうです。遺伝の影響は50％くらいで、それには及びませんが、かなりの効果量をもっています。

また、「親の育て方が子どもの学力にどう影響するのか」を調査した結果によると、子どもの学力評定に統計的に有意にかかわっていることが分かった項目が4つあり、その中のナンバーワンは、「読み聞かせをしたり読書の機会を与えてあげること」だったのだそうです。子どもの読み聞かせに対する遺伝的素質（読み聞かせを聞きたがるか聞きたがらないかの傾向）にかかわらず、親自身の積極的な働きかけによって、4％近く学力を上げる可能性があるとのことです。

ここで、何だ、たった4％か。と思われた方もいると思います。しかし、4％というのは、かなり大きな効果があると言えます。例えば、高校入試で考えてみると、試験の点数が4％上がれば、ワンランク上（あまり好きではない表現ですが）の高校や学科に合格することができます。

私は、思わず、「もっと早く知っていれば…。」と思ってしまいました。（自分の子どもたちはもう成人していますので。）ただ、本書の最終章「そもそも、子どもにとって親とは？」で、安藤教授は、「親が期待するほど、子は親の影響は受けない」とも言っています。（どっちだよ！とツッコミを入れたくなりますが…。）

しかし、本書を読んで、教育は遺伝に勝つことはできないが、教育なしに遺伝は姿をあらわさない、ということが分かりました。子どもの教育に、これをすれば必ずこうなる、という正解はありません。わたしたちは、常に自分が最善だと思うことをするしかありません。子どもたちは、わたしたち大人の生き方を見て学んでいます。あまり肩に力を入れず、がんばりましょう！

＜参考：朝日新書「教育は遺伝に勝てるか？」安藤寿康　著＞